

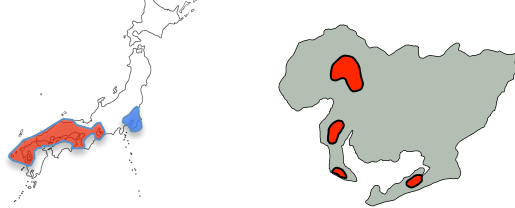
なごやのカミサンショウウオは生き残れるか？

名古屋市立大学システム自然科学研究科
生物多様性研究センター



① 名古屋市内のカミサンショウウオ

カミサンショウウオ
トウキョウサンショウウオ



カミサンショウウオの生息分布



成体のメス



卵囊対



産卵生息地

名古屋市の推定生息数
1300匹(2003年)

減少した原因は都市開発など

500~600匹(2006年)



過去

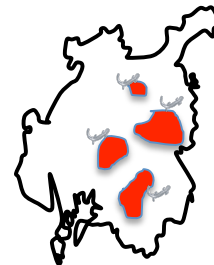


現在

名古屋市のカミサンショウウオは生息数を減らしている

今後カミサンショウウオは永続的に生き残れるか

② カミサンショウウオの多様性



カミサンショウウオは**個体群(集団)**をつくって生きている

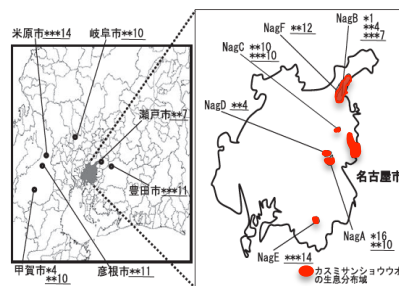
生息数が少ない

生息場所が離れる

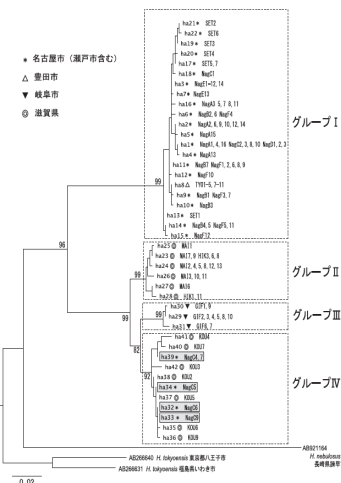
△一般的に遺伝子の多様性が低くなると、永続的に生きていきにくくるといわれている。

近交系になり遺伝子の多様性が低くなる

③ カミサンショウウオの遺伝子の多様性を調べる



名古屋市内のカミサンショウウオは滋賀県に比べて遺伝子の多様性が**低かった**



今回の研究で4つのグループがあることが分かった

名古屋市は大きな一つのグループ

しかし、名古屋市内では生息集団ごとに**遺伝子型が分かっている**

名古屋市内の中に滋賀県の遺伝子グループが検出された
⇒ **人為的に移入か？**

④ 結論

名古屋市内及び周辺のカミサンショウウオは遺伝的な多様性が低く、個体群の間で遺伝子をはっきり分かれており、**非常に危険な状態と思われる。**

引用文献

藤谷武史・能登原盛弘・熊澤慶伯 2016. ミトコンドリアDNA塩基配列を用いた名古屋市及び周辺地域におけるカミサンショウウオの遺伝的多様性の研究. 爬虫両棲類学会報 2016(1):1-12

連絡先: 藤谷武史 ugi46142@nifty.com